

日本ハム株式会社 (2021 年サステナビリティボンド)

契約の種類： アニュアルレビュー

日付： 2022 年 8 月 26 日

担当者：

Kosuke Kanematsu, kosuke.kanematsu@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2277

Yukie Osari, yukie.osari@sustainalytics.com, (+81) 3 4520 2192

はじめに

2021 年 2 月、日本ハム株式会社（以下、「日本ハム」）はグリーンビルディング及び必要不可欠なサービスへのアクセス向上に関連するプロジェクトへのファイナンス及び／又はリファイナンスを目的とするサステナビリティボンドを発行し（10 年債 100 億円、以下「2021 年サステナビリティボンド」）、その調達資金を 2022 年 6 月 30 日時点で 1 件の適格クライテリアに適合するプロジェクトに充当しました。2022 年 8 月、日本ハムは 2021 年サステナビリティボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトが日本ハム株式会社 サステナビリティファイナンス・フレームワーク（以下、「フレームワーク」）¹ で設定された資金使途のクライテリアやレポートの指標に合致しているかについての評価を、サステナリティクスに委託しました。

評価基準

サステナリティクスは、以下の要件について、2021 年 2 月から 2022 年 6 月の間に調達資金の充当を受けたプロジェクトを評価しました。

1. フレームワークで設定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対するインパクト指標に関する報告

充当を受けた調達資金の使途のカテゴリーに対する適格クライテリア及び関連するインパクト指標を表 1 に示します。

表 1：調達資金の使途、適格クライテリア及びインパクト指標

調達資金の使途	適格クライテリア	インパクト指標
グリーンビルディング	DBJ Green Building 認証における5つ星	(建設期間中) ・ 認証取得手続きの進捗状況 (竣工後) ・ 環境認証の一覧 ・ エネルギー使用量 ・ CO ₂ 排出量 ・ 水使用量
必要不可欠なサービスへのアクセス向上	(受益層①) 障がい者・高齢者 ・ 多機能トイレ ・ 車いす利用者専用駐車場 ・ 車いす用の観戦スペース ・ 盲導犬との同伴観戦スペース ・ スロープ ・ 3 塁側ゲート大階段のエスカレーター (受益者②) 自然災害の罹災者 ・ 備蓄倉庫 (受益層③) 若年層の弱者グループ	・ 車いす利用者専用駐車場の設置規模 ・ 多機能トイレの設置数 ・ 車いす用の観戦スペース規模 ・ 盲導犬との同伴観戦スペース規模 ・ スロープの設置数 ・ 3 塁側ゲート大階段のエスカレーターの設置数 ・ 備蓄倉庫における非常食等の備蓄量

¹ 日本ハム株式会社 サステナビリティファイナンス・フレームワークは、こちらよりご覧頂けます：
https://www.nipponham.co.jp/files/user/20210201_01.pdf

	<ul style="list-style-type: none">・子供向け無料遊具・多機能トイレ・スロープ <p>(受益層④) 外国人等のマイノリティ</p> <ul style="list-style-type: none">・都市公園内における案内板の多言語表記	<ul style="list-style-type: none">・子供向け無料遊具の設置数・都市公園内における多言語表記案内板の設置数
--	---	--

発行体の責任

日本ハムは、プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

独立性と品質管理

投資家に環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、日本ハムの2021年サステナビリティボンドによる調達資金の用途を検証しました。本契約の一環として、同社のフレームワークとの適合性の確認のため、日本ハムの従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、調査にあたって、対象プロジェクトに関して日本ハムから提示された情報と事実
に依拠しています。日本ハムが不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）が監督を行いました。

結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果²、すべての重要な側面において、日本ハムの2021年サステナビリティボンドによる調達資金の充当を受けたプロジェクトが、フレームワークで規定された調達資金の用途及びレポーティングクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。また、日本ハムは、サステナリティクスに対し、2021年サステナビリティボンドの調達資金が2022年6月30日時点で全額充当されたことを開示しました。

² サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

調査結果の詳細

表 2：調査結果の詳細

評価基準	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
資金使途クライテリア	2021年2月から2022年6月の間に2021年サステナビリティボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、フレームワーク及び上の表1に示されている資金使途クライテリアとの適合性を検証。	審査したプロジェクト（エスコンフィールド HOKKAIDO）は資金使途クライテリアに適合していました。	該当なし
レポーティングクライテリア	2021年2月から2022年6月の間に2021年サステナビリティボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがフレームワーク及び上の表1に示されているインパクト指標と適合する形で報告されたかを検証。報告されたインパクト指標の一覧は参考資料2を参照。	審査したプロジェクト（エスコンフィールド HOKKAIDO）において、フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対するインパクト指標が報告されていました。	該当なし

参考資料

参考資料 1：サステナビリティボンドの調達資金の充当状況

調達資金の 用途の カテゴリ	プロジェクト概要	調達資金の 充当額 (百万円)
グリーン ビルディング + 必要不可欠な サービスへの アクセス向上	北海道ボールパーク F ビレッジにおける新球場エスコン フィールド HOKKAIDO の建設	9,949
	充当額合計 ³ ：	9,949
	未充当額合計：	0
	サステナビリティボンドによる調達資金 ⁴ ：	9,949

参考資料 2：プロジェクトのインパクト一覧

調達資金の用途の カテゴリ	インパクト指標 ⁵
グリーンビルディング	DBJ Green Building 認証における 5 つ星を取得
必要不可欠なサービスへのアクセス向上	下記施設を設置予定です ⁶ 。 <ul style="list-style-type: none">多目的トイレ車いす利用者専用駐車場車いす用の観戦スペース盲導犬との同伴観戦スペーススロープ3 塁側ゲート大階段のエスカレーター備蓄倉庫における非常食子供向け無料遊具都市公園内における多言語表記案内板

³ 日本ハムは、関係会社投融資を通じて新球場建設エスコンフィールド HOKKAIDO の建設に全額充当しています。

⁴ サステナビリティボンド発行額 100 億円から発行費用を除いた金額

⁵ 日本ハムによるインパクトレポートは、こちらよりご覧頂けます：<https://www.nipponham.co.jp/ir/library/annual/>

⁶ フレームワークでは、必要不可欠なサービスへのアクセス向上のカテゴリに係るインパクト・レポートの指標として、設備の設置数や規模を定めていますが、エスコンフィールド HOKKAIDO は建設中（2023 年 1 月竣工予定）につき、当該指標について実績がないことから、日本ハムは当該指標については報告していません。同社は各指標について、竣工後のインパクト・レポートにおいて、報告を開始する予定です。

免責事項

© Sustainalytics 2022 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、「第三者データ」）であり、サステナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んではありません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時点のサステナリティクスの意見を反映しています。サステナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の使用に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは、<http://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers> をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行及び監視について全責任を負います。

本書は日本語で作成されました。日本語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は日本語版が優先されるものとします。

サステナリティクス（モーニングスター・カンパニー）

サステナリティクスは、モーニングスター・カンパニーであり、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、評価及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。30年以上の間、グローバルな投資家の進化するニーズに応える高品質かつ先進的なソリューションを提供し続けています。その上で、ESG及びコーポレート・ガバナンスに関する情報及び評価を投資プロセスに組み込んでいる、数百に及ぶ世界の主要な資産運用会社や年金基金を支援しています。また、サステナリティクスは、数百に及ぶ企業や金融仲介業者と協働してサステナビリティに関連する方針、実務、資金調達を検討を支援しています。サステナリティクスは、世界 17 カ所にオフィスを構え、40 以上の産業グループにまたがる様々な分野の専門知識を持つ 500 人以上のアナリストを含む、1500 人以上のスタッフを擁しています。

詳しくは、www.sustainalytics.com をご参照ください。

又は、contact@sustainalytics.com にご連絡ください。

